

サーチライト With Pastor Jon 創世記 6 章 パート 4

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾く (創世記 6:5)

私はテレビがいけないと言っているのではありませんよ。

一時、我が家にはテレビがない時期がありました。

ある夜、私が叩き壊したからです。文字通り、破壊してしまった。今はあります。

「ジョン、墮落したね。」

私は、律法的にこうしなさい、と言っているのではありません。

ただ主に従うべきです。

もしテレビが悪い影響を与えているなら、そこから入ってくる映像 (イメージ) が悪いものなら、それを断ち切りなさい。

もしあなたが責任を持って、あなただけでなく子供たちも、常にリモコンを持ってテレビに対処できるなら大丈夫でしょう。私もそうしています。

ひとつ言えるのは、ノアの時代には、**その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾く (創世記 6:5)**

4 番目、最後の共通点は、すぐに裁かれるべき文化。

4 番目の終わりのしるしはこれです。

「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。」 (創世記 6:13)

暴虐。暴虐は受け入れられ、明らかに称賛されています。

ターミネーターの『You made my day』(おかげで最高の日になったよ)

暴力が称えられ、日常のものとなっているのです。

ニューヨーク、ブルックリンの地方検事、William Flack がある記事を書きました。

「私が地方検事として仕事を始めた頃のブルックリンの犯罪パターンは“金か、命か”だったが今は違う。今は“金も、命も”だ。」

彼はこれを“殺人の愉しみ”と呼びました。

殺人を目的とした殺人。暴力を目的とした暴力。

お金を渡しても結局は殺される。ただ、血が流れるのを見るために。

それは無理もないことです。

なぜなら、子供たちが中学を卒業するまでに、平均 **35,000** もの殺人シーンをテレビの映像で目にしているのですから。

死、殺人、流血。感覚はマヒして「それがどうした？」

暴力に汚染され、影響を受けている。

「でも、少なくとも家庭なら…」そうでしょうか？

昨年（**1996** 年）、昨年ですよ。

120 万組の男女が、家庭内暴力の場でナイフや銃などの凶器を使用しました。

夫や妻がナイフや銃などの凶器を相手に向けた。

1 年間に **120** 万組が、死に至らしめる凶器を相手に向けて使用したのです。

現代の私たちの文化では、多くの家庭が戦場となっています。

そして今や、女性は被害者というワケではありません。

女性の犯罪の増加率の速さは男性の **6** 倍です。女性解放（ウーマンリブ）に感謝！

女性も段々狂暴になってきました。

では、警察官、法の執行官はどうでしょうか。

彼らの自殺率は平均の **4** 倍。

昨今、警察官の職務上の危機は、犯罪者に襲われることではなく、自らが自分の命を絶つことです。

この国で起こった重犯罪の内、逮捕され、有罪判決を受け、刑務所に収監されているのは **1000** 件につき僅か **2.4** 人ですよ。

1000 件の重大犯罪、狂暴な犯罪の内、たった **2.4** 人しか刑務所に入らない。

それ以外は逃げ切るか、厳密な法解釈で釈放されて服役しない。

こうして当然のことながら、警察官たちは失望し、自ら命を絶つという悲劇が生み出されているのです。

悲しいことに、犯罪は実に割に合う。

私たちは「新しいバーガーキングがやって来る！」とか「サーキットシティ（家電量販店）ができる！」とか「いい感じだ！」などと考えて生きています。

しかし、人々、地域のリーダーたち、政治家たち、地位の高い大人物たち、隣人たちの性癖に本当は何が起きているのか、家庭内で、林の中で、隠れた場所で人の思いがいつも悪に満ちていることに本当に気づいていたなら。

我々の文化の中で暴力が娯楽になり、エンターテインメント業界でもてはやされていることをもっと理解したなら、本当に理解したなら。

イエスは言いました。

「終わりの時も、ノアの日のように人々は飲んだり食べたりしている。しかし、現実には病がはびこっている。」

その通りです。

人々は言います。

「神は冷血で残酷だ。人間を洪水で滅ぼしてしまうなんて。」

違います。

神はとてつもなく忍耐深く、恵みと憐みに満ちているお方です。

神は、悔い改めのために、人間に 120 年の期間を与えましたが、それでも悔い改めなかった時に、ノアたちを集団的な悲惨さの中から救い出したのです。

家でモルモットを飼っていたのですが、ランピーのことは以前にお話しましたね。

あれは致し方なかったのです。

今でも胸が苦しいですが、ああすることが必要だったのです。

ベンはランピーをととても大切にしていた、家族もみんなそうでした。

モルモットのランピー。

彼の目は虚ろになり、後ろ脚は痙攣していた。

それで、私はランピーを裏庭に連れて行き、2 回・・・

私は意地悪でそうしたのでしょうか？ 違います。

ランピーは死にかけていました。悲惨な死を迎えようとしていた。

親なら分かりますよね。

病んだ動物を子供の部屋には置いておけないこと。

病気が伝染する可能性があるから。

狂犬病にかかった犬を赤ちゃんと一緒に遊ばせたりはしないでしょう。

その犬は病気で死んでいく。かわいそうだけど、ランピーもそうでした。

だから、子供たちが病気に侵されないように、また、病んでいて回復の見込みがなく、望みが絶たれた悲惨な状態から解放するために、ぴしゃり、ぴしゃり・・・

そうして、まだ病に侵されていない家族を守る。

そうです。

神は憐み深く、人々に悔い改めのチャンスを与えて、忍耐強く待っています。

ノアは箱舟を造りながら、人々に毎日伝え続けました。

「悔い改めよ！ 悔い改めよ！」 「裁きが下る!! 終わりの時が来る!!」

「はあ？ 終わりの時？ 天から雨が降る？ ばかばかしい！」

人々はノアを嘲笑い、「食べて飲んで、経済は順調で、幸せだ！」

しかし神は、「彼ら社会全体が病んでいる。」

神は憐み深いお方。

「じゃあ、ジョン、この話は本当だと言うの？ 本当にそう信じているの？」

「ジョン先生、勘弁してよ！」

私は、これが事実であることを科学的根拠によって説明できます。

でも大丈夫。今夜はしないから。また別の機会に。

しかし、このことは言えます。

「私はこれが事実であると、全くの確信を持っている。」

イエスがノアのことを実在した人物として語り、洪水についても事実として語ったから。

ノアの日のよう (マタイ 24:37)

ダニエルとライオンのほら穴、ヨナと巨大な魚、エデンの園で地のちりから造られたアダムとエバ、ノアと洪水、塩の柱になったロトの妻、などが論争になる時はいつも、人は「それは霊的なたとえで、事実なワケがない。」等々言うでしょう。

だけど、イエスがこれらのことを事実として話しているのです。

私にとっての問題はただひとつ。

『イエスは神の子か？ 彼は肉体を持った神か？』

そうであるならば、イエスが「そうだ」と言うことは、そうなのです。

イエスが「ロトの妻は塩の柱になった」と言うならば、なんと彼女はそうなったのです。『イエスは誰であるか』これがすべて。

誰が何を言っても、イエスが議論の中で言った事実から離れてはいけません。

それだけです。

「イエスが神の子だと、どうして分かるんだ？」

答えはこれ。『イエスは死からよみがえった』

イエスは「一つのしるしを見せよう。」と言いました。

「この体を破壊してみなさい。3日後にその墓は空っぽになる。」

私はその墓に行ったことがあります。

彼はそこにいませんでした。よみがえった。

イエスは、自分が誰であることを証明しているのです。

キリストのよみがえりによって、私たちの信仰は確かなものとなり、それがなければ、私たちには分かりませんでした。

キリストのよみがえりが真実ならば、事実、それは真実で、イエスは彼ご自身が言われる通りの方であり、その主が「この話は真実である」と認めているのです。

「それで、ジョン、あなたはそれを信じるのか？」 はい、信じます。

「では、あの動物たちはどうなんだ？ あの、流されてしまった全ての動物たちは。」

このことから、あなたも私も学ぶべきです。

罪は…罪は、悲しい結果を招くということ。

創世記 1 章で、神は人に動物を支配する権威を与えましたが、人は罪を犯しました。

そして、罪はいつも苦しみをもたらして、その影響は、罪を犯した本人だけでなく周りのものにまで及ぶのです。

あなたが動物を愛しているなら、洪水から真実を学ぶべきです。

罪がもたらす影響は、深い深い悲しみを伴うから。

「ジョン、あの動物たちが箱舟に乗ったというのも信じるの？」

これについては次回お話しますが、それは科学的にも全く可能であることが分かります。

でも、今夜はここまで。

これだけは覚えていて下さい。

ノアの日に起きたあの出来事は、今また起きようとしています。

なぜなら、私たちは今、ノアの日と同じような終わりの時代を生きているから。

私は心底そう思っています。

この教会、そしてあなた個人が困惑しているのも、信者なのに「ジョン、もう何年もその話を聞いているけど、再臨の約束はどうなっているんだ？ 全ては上手く回っているじゃないか。」と言うのも、どちらもあり得ます。

イエスは、多くの人がそう考えて口にすると言いました。

ペテロも、あざける者が出て来ると言っています。

しかしイエスはまた、こうも言いました。

「知恵のある男、女は、多くの人が全然問題ないと言っている時、そのノアの日に裁きが来るのを理解して見極める。」

だから、世が崩壊していくように見える時も、希望を持って天を見上げ、「主は、手が届くところに来ておられるから大丈夫。」と言えるのです。

私たちは、主が言ったような前兆の終わりの時代を生きています。

性的墮落、暴虐、絶えることのない悪い計りごと、爆発的な人口増加。

これらによって目を覚まし、時を見極め、知恵を得て、箱舟に乗りなさい。

そして、できる限りの人を掴んで「さあ、乗り込もう！ 王国の一員になるんだ!!」と言いましょ。

世の中が上手く回っているように見える時、しっかりと目を開けて見回すなら、あなたも分かります。

目を覚ましてコーヒーの香りを嗅ぎ、そして舟に乗り込む。

私たちは救いという舟に乗って、天国に向かって漕いでいるのです。

主の日は、盗人のようにやって来ます。(Ⅱペテロ 3:10)

アップルゲートの家族たち、目を覚まして！

「全て上手くいっている」なんて言わないで！

それは間違いだから。

全てのことが指し示しているのは、私たちが終末にいるということだから。

私たちは最後の世代として、いちじくの木が芽吹くのを、「ノアの日のような」と言われたことが実現していくのを、今見ているのです。

天国へ行く日も遠くない。

しっかりと理解してして下さい。

最後の時代の信者である、という思いを減退させないように。

主に目を向け、主に仕え、大切な人たちに、愛と情熱を持って警告し続けましょう。

「さあ、一緒に乗るんだ！」「ここに来て！ 乗り込もう！」

この世は破滅の中を通ることになるから。それは本当に起こるから。

だけど、あなたが正しい選択をするならば、救われ、携挙され、天に挙げられます。

今夜これを聞いて、まだ決めかねているなら、祈りの部屋に行って、兄弟姉妹たちと共に祈り、乗船のチケットを手に入れましょう。

主の日が近づいているから。

イエスの御名によって。

つづく

あなたは、食べて満ち足りるとき、気をつけて、エジプトの地、奴隷の家からあなたを導き出された主を忘れないようにしなさい。あなたの神、主を恐れ、主に仕えなさい。

また御名によって誓いなさい。(申命記 6:11b - 13 新改訳 2017)